

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立本村小学校 第4学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 市販のワークテストの結果、学習した漢字の定着について課題がある児童が30%ほどいる。 市販のワークテストの結果、自分の考えを書くことができるが、叙述に即した考えを書ける児童はワークテストの全国平均と比較して少ない。叙述に即して的確に捉えたうえで自分の考えを書ける児童は60%ほどである。 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた適切な練習量の設定、普段から既習漢字を積極的に書くことの習慣付けにより、既習漢字を定着させる。(漢字小テスト正答率90%以上、50問テストの正答率70%以上) 根拠をもって考えることができるように、自分の考えとともにそのように考えた理由を問うなど発問やワークシートを工夫する。(ノート・ワークシートでの記述や授業中の発言で、根拠を明らかにしている。80%以上)
算数	<ul style="list-style-type: none"> 市販のワークテストの結果から、四則計算が身に付いていない児童が30%ほど見られる。また、市販のワークテストの結果から、理解が十分満足できる値を示す児童が54%いる一方、理解が不十分な児童が30%おり、基礎基本の定着度に二極化が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の時間の最初に5分間のスキルアップタイムを設け、常に計算練習を行って四則計算を基本とした計算力の向上を図る。(ワークテスト平均80点)
理科	<ul style="list-style-type: none"> 市販のワークテストの結果、実験や観察などに意欲をもって活動することができる。 市販のワークテストの結果、実験結果を学習内容をもとに考察したり、問題を解いたりすることに課題が見られる児童が60%ほどいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら問いを見出し、見通しを持った実験観察ができるようになってきたことがノート等の記述から見とれるため、実験、観察など、自分の目で確かめられるような活動を引き続き行っていく。(各単元につき、実験や観察を1回以上行う) 実験結果やまとめを記述する時間をとり、自分の言葉で実験結果やまとめを表現し、確実に理解できるようにする。(ノートやワークシートに記述できている児童80%以上)
体育	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートや東京都統一体力テスト意識調査の結果から、体を動かすことへの意欲をもっている児童は85%いる。 アンケートや実態調査の結果から、週に4時間以上運動に親しんでいる児童が30%いる一方、あまり運動しない児童も30%ほどおり、運動経験の差に二極化が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動経験を増やすため、ウォーミングアップの時間を取り継続的に取り組める運動を増やしていく。 体育の授業で教え合ったり、学び合ったりする活動を取り入れる。